読書メモ２０１９年 10 月号

やなぎさわかつひろ
柳沢克央　編

（信州・上田仮説サークル）

2019 年 10 月 19 日（土），10 月例会用レポート

◇はじめに ―

前回までの「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて屋代高校図書室蔵書。

読書の秋です。最近，パソコンで入力する作業時間が減っていますが原因は意識できません。たぶん，ちょっとしたことで打ち込むきっかけが減っているだけだと思われます。今月はたくさん読めるでしょうか（10/10・木）。

◇10 月に読んだ本

◎鹿子生浩輝（かごおひろき）著『マキャヴェッリ―〔君主論〕を読む』（岩波新書・2019 年）

『君主論』についての手際の良い解説本。ザッと点検読書してオシマイ。私は塩野七生さんのハードカバーのほうが好み。ただし，『君主論』はメディチ家と深い結びつきを持つ本であることについての認識を新たにできたので，意義はあった。

◎エマニュエル・トッド（聞き書き・朝日新聞）『グローバリズム以後―アメリカ帝国の失墜と日本の運命』（朝日新書・2016 年）

この本からも『上級国民・下級国民』と同じように「中間層の解体」＝「階層化社

会」が世界的に進行していることが分かった。「日本は米国以外の同盟国を持つべきだ」とのトッドの言葉をどう解釈したら良いか，大きな謎が残った。「大転換期」に入るらしいことだけは意識化できた。世界情勢，日本の社会情勢についてのこまめなアップデートがますます欠かせない。―でも，そういうことは，別にこの本を読まなくてもある程度予測がつく。

◎鈴木祐著『ヤバい集中力』(SB クリエイティブ・2019 年)

どのようにしたら集中力が発揮できるモードに入れるのかを説明したマニュアル本。劇薬の雰囲気があるが，内容としてはよくある自己啓発本にあることと同じ。刺激的なデザイン，タイトルになっているのは「売れる」ための工夫。点検読書で十分。さほど寿命の長い本とも思えない。良い点は「刺激的で読みやすい」ことか。高校生，大学生向き。白髪のベテラン教師にはちょっと恥ずかしいかな…。でも，やっぱり面白いです。

◎柳広司著『二度読んだ本を三度読む』(岩波新書・2019 年)

〇ジョージ・オーウェル『動物牧場』は社会主義国の風刺であり，なおかつ，現代の日本についても驚くほど的を射て問題点を指摘している作品だと言える。

〇山際淳司『スローカーブを，もう一球』はスポーツノンフィクション。

―お祭り（サーカス）は民衆にとっては政治を忘れるためのものであるが，権力者にとってはそれは政治のための好機である。

―ブエノスアイレスからの帰国後，安倍首相の嘘は取り巻きや財界から賞賛され，以後，彼は嘘をつけば褒められると勘違いするようになった。

―「決まったからにはやるしかない」と，まるで「始めたからには勝つしかない」と国民を鼓舞した先の戦争時と同じことをマスコミはまた繰り返している。

教訓がたくさん詰まった読書案内。また借りて読んでみたい。その時には現在とまた興味関心も変わっているのではないか。それがよい。それでよい。

◆来月以降のためのリスト

◎石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎共著『経営戦略論』（有斐閣・1985年）（古私物）

◎堀古英司著『リスクをとらないリスク』（クロスメディア・パブリッシング・2014年）（古私物）

◎野村進著『調べる技術・書く技術』（講談社現代新書・2008年）（古私物）

◇まとめ・つぶやきなど

〇安倍晋三首相は落語「首提灯」で首を斬られた男と同じ状態である。本人も通行人たちも，まだ「それ」に気づいていない（ふりをしている）……。

〇「殿様はいつまでも床の間を背にしてどっしりと座っていらっしゃいまし。ところで，わたくしどもは少々用事がありますゆえ，しばらく出かけます。あとをよろしく。長々お世話になりました。いずれまたお目にかかることもございましょう。では御免」とその侍は言い残して殿の元を去り，もう二度と戻ってきませんでした。それもそのはずです。殿が乗っていたのは「沈没寸前の戦艦大和」だったからです。いまごろ，殿はどこで何をしていることやら…誰も知るものはございません。（芥川龍之介ふうに）。

〇古代ギリシャ（紀元前5世紀）の歴史家，ツキジイデスが『ペロポネソス戦史』の中で「戦乱期には言葉の意味が混乱する」と述べているが，いまはその時期だと思われる。世代によって使うハードウェアが異なれば，それに乗ってくるソフトウェアも異なり，言葉の定義も自ずと変わってくる。「言葉が通じない」という現象が起こる。大きな変革の前後でこうしたことが起こることはむしろ当然のことである。〔以上，2019年10月10日（木）13:30〕